

C-72 被服構成に関する研究。女物ゆかた(中形)の裁ち合せ方について。
函館大谷女短大 油川トク

目的 被服実習(和裁)の裁目として、最初に取り上げるのが、女物ゆかたである。
の指導上、先づ困難であるのは、柄を考へての裁ち合せ方である。その時侯で学生は、
和裁に対する興味を失う結果となる。以上の問題を解決する方法がないものかと考へ
次の事項を調べ試みた。

方法 ゆかた裁ち合せの一方法として、染めの工程から考へられた、ゆかた裁のある
ことを知った。それは、完全な1柄が1米の型紙で染められている。折注染と云う
ことから、裏表のないと同時に、1米おきに同一の柄が相対的にある。完全な柄が11
型あることから、そでに1型、身丈を3型でとる。この要領で裁ち合せ、着付けた場
合に、相対的にあかぬ柄が出ない。完全な柄合せとなる。而して3米を片身頃とする
ので、身丈を身長だけ必要とすることから、それ以上身丈を必要とする場合は、その
必要尺により、裁ち方順序をそれそれ変へてみた。

結果 1. 柄がよく合う。 2. 柄によっては、身丈を160種までに載てるので
身長のある者も容易に着られる。 3. 柄がよく合い、ハサミの入る場所がまよるの
で、はじめて手がける者でも、気軽に裁ち離すことが出来る。柄合せの基礎知識が容易
に習得させることが出来る。又1反を5分位で裁つことが出来る。以上のことから
是非共に皆様に知らせたく思う。